

## ＜世界株式型（為替ヘッジあり）＞

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		13.57		23.91		66.85		59.61							
	(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成13年5月1日。															
運用方針	主に世界各国の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジを行います。MSCI KOKUSAI インデックス (円ヘッジ) を上回る投資成果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に世界各国の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、当社が選定した世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	ラッセル・インベストメント外国株式ファンドI-4A (為替ヘッジあり) (適格機関投資家限定) * (注6) インデックスファンド海外株式 (ヘッジあり)															

## ＜世界債券型＞

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		△1.75		5.35		23.28		56.30							
	(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成11年4月1日。															
運用方針	主に国内外の公社債に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。基本資産配分は国内公社債50%、海外公社債50%とします。海外公社債の投資部分に対し、原則として、為替ヘッジは行いません。NOMURA-BPI (総合)50%、シティ世界国債インデックス (除く日本)50% で加重平均した複合指数を上回る投資効果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、上記基本資産配分を概ね維持しながら、当社が選定した内外の公社債を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	RIC Russell Investments Global Bond Fund (注5) (注7) ラッセル・インベストメント日本債券ファンドI-1 (適格機関投資家限定) * (注6) グローバル・ボンド・ファンド VA (適格機関投資家専用) *															

## ＜金融市場型＞ (注1)

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		△0.17		△0.28		△0.26		109.97							
	(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は昭和61年12月1日。															
運用方針	主に国内の公社債および短期金融商品に分散投資することにより、中長期的に安定した成長を目指します。NOMURA-BPI (総合短期) を上回る投資成果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、当社が選定した国内の公社債を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	フィデリティ・マネー・プール VA (適格機関投資家専用) *															

## ＜グローバル・バランス型＞

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		6.71		18.15		71.96		91.85							
	(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成13年5月1日。															
運用方針	主に世界各国の株式および公社債に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。基本資産配分は国内外株式50%、国内外公社債50%とします。基本的には為替ヘッジは行いません。ただし、市況動向等を勘案して、為替ヘッジを行うことがあります。(為替変動リスクがあります。) MSCI WORLD インデックス50%、シティ世界国債インデックス50% で加重平均した複合指数を上回る投資成果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、上記基本資産配分を概ね維持しながら、当社が選定した世界各国の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	(グローバル債券運用) RIC Russell Investments Global Bond Fund (注5) (注7), グローバル・ボンド・ファンド VA (適格機関投資家専用) * (グローバル株式運用) RIC II Russell Investments World Equity Fund (注5) (注7), グローバル成長株ファンド*															

(注1) 「金融市場型」は株価・債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。ただし、低金利環境下 (マイナス金利を含む) では、「金融市場型」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

(注2) バリュースタイル：割安株を中心に投資する運用スタイルをいいます。

(注3) グローススタイル：成長株を中心に投資する運用スタイルをいいます。

(注4) ※印は私募投信です。

(注5) 外国籍投資信託：海外で設定・運用されている投資信託をい、英語で表記しています。

(注6) 平成28年7月16日付で、投資信託名の「ラッセル」の後に、「・インベストメント」が追加されました。

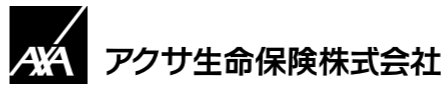
(注7) 平成29年2月15日付で、投資信託名の「Russell」の後に、「Investments」が追加されました。

(注8) 当投資信託の委託会社名が、平成28年10月1日付で「新光投信株式会社」から「アセットマネジメント One 株式会社」に変更となりました。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-911-999

受付時間 月～金 9:00～19:00

土 9:00～17:00 (日・祝日、12/30～1/4を除く)



redefining / standards

変額保険『リバティ (終身型)』『リバティ (有期型)』、ユニット・リンク保険 (有期型)

## 平成28年度 特別勘定決算のお知らせ

### 1. 運用環境 (平成28年4月～平成29年3月)

#### 【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数 (TOPIX) は前年度末比+12.28% の1,512.60ポイント (前年度末1,347.20ポイント) となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票で EU (欧州連合) 離脱派が勝利したことを受けて急落する局面があり、一時1,200ポイントを下回りました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて急落する局面がありましたが、米新政権の政策への期待などから市場は上昇し、1,500ポイントを超えました。1月に米新政権が発足すると、政策運営への不透明感と期待とが錯そうし、その後はもみ合う展開となりました。

#### 【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には0.065% (前年度末△0.050%) となりました。年度の前半は、4月から6月にかけて日銀の追加金融緩和期待への高まりなどを背景に、金利は低下基調で推移しました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて金利は更に低下し、△0.300%となる場面がありました。その後、7月から8月にかけて、財務相が40年国債増発の検討を表明したことなどから金利は上昇に転じ、9月には日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を発表したことなどを受けて、0% 近辺で推移しました。年度の後半は、米新政権の政策への期待などから米国金利が上昇したことに連れて国内金利も上昇しました。

#### 【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末の NY ダウ工業株30種は前年度末比+16.84% の20,663.22ドル (前年度末17,685.09ドル) となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面があり、一時17,000ドル近辺まで下落しましたが、買戻しの動きと堅調な経済指標から上昇に転じました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待などから市場は大幅に上昇しました。その後、米新政権の政策運営への不透明感から軟調に推移する場面もありましたが、3月には21,169.11ドルを付け、期を通じては上昇して終わりました。欧州株式市場は上昇しました。市場別の年間騰落率は、独 DAX 指数+23.55%、英 FTSE100指数+18.59%、仏 CAC40指数+16.82% となりました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面がありましたが、年度の後半には、米国株式市場に連れて上昇しました。

#### 【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には2.387% (前期末1.769%) となりました。年度の前半は、6月末に、英国の国民投票の結果などを受けて金利は急低下する局面があり、一時1.3% 近辺まで低下しました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測、さらには、FOMC (連邦公開市場委員会) で1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に金利は上昇しました。その後は、金利上昇への期待と、新政権の政策運営への不透明感から揉み合いました。年度中に、FRB (米連邦準備制度理事会) による、FF (フェデラル・ファンド) 金利の誘導目標引き上げが2回行われ、計0.500% 引き上げの年0.750～1.000% となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には0.328% (前年度末0.153%) となりました。年度の前半は、EU が域内の景気・物価見通しを下方修正したこと、英国の国民投票の結果などから金利は低下し、△0.2% を下回りました。年度の後半は、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測などを背景に金利は上昇し、0.5% 超となることもありましたが、ECB (欧州中央銀行) の政策金利は据え置かれ、年0.000% となっています。

#### 【外国為替市場】

米ドル / 円相場は、円高米ドル安となり、年度末には112.19円 (前年度末112.68円) となりました。年度の前半は、米国の早期利上げ観測の後退、英国の国民投票の結果などを受けて円高で推移し、100円近辺の水準となることがありました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権への期待からドルが買われました。その後も、12月には堅調な米景気指標や、FOMC で1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に円安が進行し、118.18円を付けました。年度末に向けて米国の金利上昇への期待と米新政権の政策運営への不透明感から揉み合い、円高米ドル安で推移しました。ユーロ / 円相場は、円高ユーロ安となり、期末には119.79円 (前期末127.70円) となりました。期の前半は、英国の国民投票の結果などを受けて円高に推移し、一時111.22円となりました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、円、ユーロとも対ドルで下落しましたが、円の下落幅がユーロよりも大きかったことなどから、対ユーロで円安基調となりました。期末に向けて欧州における反 EU の政治リスクへの懸念と欧州の金利上昇との間で揉み合いましたが、期を通じては円高ユーロ安となりました。

### 2. 特別勘定資産の内訳 (平成28年度末)

(単位：百万円、%)

区分	日本株式型		日本株式積極運用型		米国株式型		欧州株式型		世界株式型 (為替ヘッジなし)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
現預金・その他	1,176	4.2	96	4.0	845	4.2	159	4.1	126	4.4
株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国公社債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	27,133	95.8	2,308	96.0	19,430	95.8	3,710	95.9	2,753	95.6
貸付金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	28,310	100.0	2,404	100.0	20,276	100.0	3,870	100.0	2,879	100.0

区分	世界株式型 (為替ヘッジあり)		世界債券型		金融市場型 (注1)		グローバル・バランス型	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
現預金・その他	37	4.1	440	4.6	491	6.5	1,266	4.5
株式	-	-	-	-	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-	-	-	-	-
外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-
外国公社債	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	876	95.9	9,150	95.4	7,095	93.5	26,934	95.5
貸付金	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	914	100.0	9,591	100.0	7,587	100.0	28,201	100.0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

### 3. 特別勘定の運用収支状況（平成28年度末）

（単位：百万円）

区 分	日本株式型	日本株式 積極運用型	米国株式型	欧州株式型	世界株式型 (為替ヘッジなし)
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	285	28	146	22	7
有価証券売却益	-	-	-	227	-
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	3,802	308	2,608	28	344
為 替 差 益	-	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	51	18	-
為 替 差 損	-	-	-	-	-
その他の費用	-	-	5	94	1
収 支 差 額	4,087	337	2,699	165	350

区 分	世界株式型 (為替ヘッジあり)	世界債券型	金融市場型 <sup>(注1)</sup>	グローバル・ バランス型
	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	20	44	-	320
有価証券売却益	-	-	-	386
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	91	△ 208	△ 6	3,705
為 替 差 益	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	0	△ 40	2	2,435
為 替 差 損	-	-	-	-
その他の費用	-	5	-	178
収 支 差 額	111	△ 129	△ 8	1,799

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

### 4. 保有契約高（平成28年度末 /9勘定合計）

（単位：件、百万円）

項 目	件 数	金 額
変額保険（終身型）	52,162	442,310
変額保険（有期型）	654	3,226
ユニット・リンク保険（有期型）	9,675	40,824
積立ユニット・リンク保険特約	636	1,479
合 計	63,127	487,841

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

### 5. 特別勘定の運用状況

#### ◀日本株式型▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	16.43	34.04	96.28
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は昭和61年12月1日。				
運用方針	主に日本企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。東証株価指数（TOPIX）を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に日本企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、複数の投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持し、マルチ・マネージャー運用の投資信託やバリュースタイル <sup>(注2)</sup> の投資信託を組み合わせる運用を行いました。今後も、引き続き、複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	ラッセル・インベストメント日本株式ファンドI-3(適格機関投資家限定) <sup>*(注4)(注6)</sup> 、(適格機関投資家向け私募)日本株バリュースタイル・マネージャーファンド <sup>*(注8)</sup> 、アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンド(適格機関投資家専用) <sup>*</sup>			

#### ◀日本株式積極運用型▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	16.19	34.71	91.72
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成13年5月1日。				
運用方針	主に日本の成長企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。東証株価指数（TOPIX）を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に日本の成長企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、複数の投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持し、グロース・スタイル <sup>(注3)</sup> の投資信託に投資しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	ピクテ・ニッポン・プレミア・グロース・ファンド(適格機関投資家専用) <sup>*</sup> 、 フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用) <sup>*</sup>			

#### ◀米国株式型▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	14.65	37.35	126.89
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は昭和61年12月1日。				
運用方針	主に米国企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。S&P500指数を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に米国企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、マルチ・マネージャー運用の投資信託を組み入れて運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き、複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	RIC Russell Investments US Equity Fund <sup>(注5)(注7)</sup> 、米国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家向け) <sup>*</sup>			

#### ◀欧州株式型▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	3.97	2.12	79.18
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成11年4月1日。				
運用方針	主に欧州企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。MSCIヨーロッパ指数を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に欧州企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、マルチ・マネージャー運用の投資信託を組み入れて運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き、複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	RIC II Russell Investments Pan European Equity Fund <sup>(注5)(注7)</sup> 、フィデリティ・欧州株・ファンド			

#### ◀世界株式型（為替ヘッジなし）▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	13.57	28.41	116.11
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成13年5月1日。				
運用方針	主に世界各国の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。MSCI KOKUSAI インデックスを上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に世界各国の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、当社が選定した世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成29年3月末日現在)	ラッセル・インベストメント外国株式ファンドI-4B(為替ヘッジなし)(適格機関投資家限定) <sup>*(注6)</sup> インデックスファンド海外株式(ヘッジなし)			